

備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 16 号

平成 17 年 12 月 22 日

発行元
岡山県立
高松農業高校
tel
086-287-3711
fax
086-287-3713



12月16日の第4回アイラブ交流会で、加茂幼稚園の園児たちが作ったクリスマスツリー。ステージの下は生徒扮するサンタクロースとトナカイ。幻想的なツリーに思わず歓声が上がリ、園児やお年寄りの方も大喜びで今年も大成功でした。

【朝礼台】 暑い暑いと言いつつ、さっぱりとした寒さの中、2学期の始業式の時、「楽しい思い出深い高校生活を作るにはこの2学期をどのように生活するかにかかっています。しっかりと自分を見つめ、悔いを残さないよう真剣に取り組んで欲しい」という話をしました。如何でしたが、思い深い2学期になりましたか。真剣に取り組んだ2学期でしたか。

仏教師人の坂村真民氏の「本気」という詩を紹介します。「本気になる／世界が変わってくる／自分が変わってくる／変わってこなかったらまだ本気になってない証拠だ」

高校時代には、この時代しかできないことに本気で取り組んで欲しいと思います。勉強、スポーツ、趣味でもよいでしょう。君たちが本気でやらなければならないことを自分で判断してやってください。何とかなる、何とかしてくれるというように甘い考えではなにもできません。

さて、冬休みの間に新しい年を迎えます。2006年の新たな決意をこの休みの間にしっかりと固めてください。一年の計は元日にあり、といいますが、じっくり考えて一年の計を立ててください。それでは皆さん良い正月を迎えてください。校長より

【放課後】 11月25・26日
レスリング部 全国高校選抜レスリング大会・県予選で初優勝(創部33年初)を果たす。会場 笠岡工業高校

【団体】 高松農 6・1 関西、高松農 5・2 笠岡工業、高松農 4・3 倉敷高校 3 戦全勝

【個人】 55 kg 級・津嶋勇輝君(農業経済科2年)・第3位 / 60 kg 級・青井政樹君(生物工学科2年)・第1位 / 同・田中義己君(農業土木科1年)・第4位 / 66 kg 級・佐藤裕和君(農業経済科2年)・第1位 / 同・土山正幸君(畜産科2年)・第4位 / 74 kg 級・西山裕祐君(農業科学科1年)・第3位 / 84 kg 級・北野輝君(農業土木科2年)・第2位 / 96 kg 級・時信光二君(農業土木科2年)・第1位・横山幸和君(農業経済科1年)・第2位 / 120 kg 級・原重太君(農業経済科1年)・第3位。

この結果、第21回中国高校選抜レスリング大会(1月28日・29日鳥取県倉吉総合産業高校)には団体と個人で5人(青井君・佐藤君・北君・時信君・横山君)の出場が決まった。この大会で団体ベスト4(個人は第3位まで)入りすれば2年連続2回目の全国高校選抜大会(3月27日・29日・新潟市で開催)出場が決まる。



高校との対戦で投げ技を繰り出す高松農(写真：山陽新聞社提供)

【木漏れ日】 3・4・5歳児が高松農業高校と高松城址へ遠足に行きました。農業高校では5歳児一人ずつに高校生のお兄さんお姉さんがついて案内してくれました。お兄さんお姉さんは優しく抱き方を教えてくれたり、エサを分けしてくれたりと、楽しさも倍増しました。帰る時には「またあいたいな」「さみしいな」という声も聞かれました。

岡山市南方保育園・南方だより11月号から



これらの写真は11月1日たかのう学校開放デーの5コマです。今年も各学科の体験講座が人気で、農業経済科では収穫体験、園芸科学科はフラワーアレンジメント、畜産科学科は搾乳体験、農業土木科は測量体験、生物工学科はビスケット製造体験。来年も是非ご参加ください。



【農場】 12月16日・学びのラボレシヨン事業・農業土木科で農業土木科3年生が(株)エイトコンサルティング技術本部防災環境部の部長伊藤統博氏、佐藤寿一主査、瀧島義之氏から、環境に配慮した水路の設計について、各自が提出した一つひとつのレポートについて指導を受けた。

「なぜ、君は石垣にしようとしたのか?」「洪水の時に、あふれた水が水田に流れこまないように工夫した点はなど?」の技術者から直接指導を受け大変勉強になりました。

【農場】 ニュース

園芸科学科3年の松本美奈さんと熊澤智子さんが、室内装飾の技能・知識に関する国家資格「2級園芸装飾技能検定」に県内高校生として初めて合格しました。2級は従来高校生は受験できなかったが、法改正で平成16年度から3級を取得していれば受験できるようになった。受験した県内高校生12人のうち2人だけが合格しました。

【ボートルム】 今から4ヶ月前の8月24日、新岡山港で、魚釣りに来ていた男性が誤って海に落ち、その男性を助けようとしてとっさに海に飛び込んだフェリー会社の職員が亡くなるという事故がありました。二人は数時間後に海底に沈んでいるのをレスキュー隊員が発見されました。その事故から2ヶ月後の11月、この男性に紅綾(危険を顧みず人命救助に尽くした人に贈られる賞、岡山県では昭和40年から2人目)が贈られました。先日、この男性のことが新聞に報道されていました。記事の中で、男性のお兄さんのコメントが紹介されていました。「弟は泳げなかった。以前、港で荷物の積み降ろし作業中に海に落ち、同僚に救われたことがある。その時の記憶がよぎったのかもしれない。」さらに記事は、「彼は誠実な人柄で、わがままや人の悪口は絶対に言わなかった。運輸会社に就職後も黙々と働き、遅刻しないように出勤時の作業着で寝ることもあった」と続く。

私たちがその男性が本校の卒業生であることを知ったのは最近になってからでした。簡単に人の命が奪われる事件が相次いでいる中で、私たちは彼のことを誇りに思います。

須和田憲司君、平成5年3月園芸科卒業。事故当時三十歳。事故の翌日は彼の誕生日であった。